

令和2年度 国立吉備青少年自然の家教育事業

防災キャンプ in 吉備

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

近年全国的に頻発している災害について、子供たちが家族とともに必要な知識を得るとともに、一人一人が防災意識を高め、もしもという場合の対応方法を実践することにより、災害時の行動について考えを深める。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和2年10月10日（土）～11日（日）1泊2日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

小学生4～6年生を含む家族 6家族30人程度

② 参加人数

6家族19人

(3) 講師等

① 講義・演習「自然と災害を知り、正しく備えよう」

講師：諏訪 清二氏（防災学習アドバイザー・コラボレーター）

(4) 企画・運営のポイント

- ① 吉備中央町内や近隣地域の小学校を中心に広報活動を行ったほか、各種メディア等を利用した広報活動を行い、県内各地域から広く参加者を募集した。
- ② 新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、三密に配慮した活動や家族単位での活動を中心に実施した。
- ③ 防災の専門家を招聘した講義・演習では、具体的な災害がイメージできる内容を取り入れ、参加家族が防災への心構えや必要な知識を習得できる活動とした。
- ④ 防災について難しく考えすぎず、楽しみながら防災意識を高められるように活動内容を工夫し、体験を通して災害時に必要な知識や技能の習得を図った。
- ⑤ 空き缶や新聞紙、段ボール等の身近な廃材を使用することで、身近にあるものが防災グッズとして活用できる楽しさや自分達で工夫して活動する大切さを味わえるようにした。

3. 活動の内容等

(1) 日程

10月10日(土)		10月11日(日)	
13:30	受付	6:45	起床・洗面・清掃
14:00	開会式	7:45	朝のつどい
14:30	①講義・演習 「自然と災害を知り、正しく備えよう」	8:00	④野外炊事 「災害時に役立つ野外炊事2」
16:00	②野外炊事 「炊き出し体験・災害時に役立つ野外炊事1」	9:30	⑤防災グッズの活用体験 「救助法・防災グッズの活用・非常食体験」
18:30	③避難所体験 「段ボールベッド作成・就寝」	11:30	閉会式
21:00	入浴		
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【①講義・演習「自然と災害を知り、正しく備えよう」】



【②野外炊事「炊き出し体験・災害時に役立つ野外炊事1」⑦】



【②野外炊事「炊き出し体験・災害時に役立つ野外炊事1」⑧】



【③避難所体験「段ボールベッド作成・就寝」】



【朝のつどい「避難所体操」】



【④野外炊事「災害時に役立つ野外炊事2」】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉞】



【⑤「防災グッズの活用体験」①】



【⑤「防災グッズの活用体験」㉟】



【⑤「防災グッズの活用体験」㊱】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① 実体験で感じると防災に関する想像力がより働くと感じました。
- ② とても楽しんで体験し、学んでいました。特に火を使用した野外炊事をする時は目がキラキラしていました。
- ③ 防災グッズなど買わずに見せてもらえて良くわかりました。

- ④ 防災について、気を付けなければならないポイントをたくさん教えていただきとても勉強になりました。
- ⑤ 防災に備えて用意する物や気を付けておくことが良くわかりました。
- ⑥ 防災だけではなく、他のご家族と交流できてとても良い時間を親子で過ごすことができました。
- ⑦ 聞くより、見るより、行うことが一番情報が多いと思いました。
- ⑧ 楽しく実践的な内容で勉強になりました。
- ⑨ 用意をしても常に足りないものや季節にあわせて用意をする必要があると学びました。
- ⑩ やったことないことにチャレンジする子供の様子が見られよかったです。

(3) 成果

- ① 講義・演習や災害時の生活を体験することで、家族で防災について考えて実践する機会となり、一人一人の防災意識を高めることができた。
- ② 避難所体験を通して、災害時の生活の不便さ等を体感することができたとともに、普段の生活の快適さや便利さに感謝することができた。
- ③ 家庭での防災に関する備えや非常時の避難行動について家族で話し合う場面を設定したことで、家族の災害や防災に対する意識を向上させることができた。

(4) 今後の課題

- ① 防災に関する知識の学びと実践的な体験型のプログラムをバランスよく組んでいく必要がある。
- ② 被災経験のない子供たちが災害を自分事として捉えて考えていけるように、活動内容を工夫していくことが必要である。
- ③ 地域の防災士会や防災教育に力を入れている教育機関等と連携し、質の高い防災教育プログラムを提供していく必要がある。
- ④ 災害のリスクが高まる中、研修支援の活動プログラムとして利用団体に提供できるように整備するとともに、職員の指導力向上に向けて研修する必要がある。

担当：企画指導専門職付主任 山川 真梨子